

「白糠こども園」開園

特集

0歳児から義務教育段階終了まで、 教育の連続性を確保する。

4月1日、白糠こども園が開園しました。学校法人二葉学園（4月1日付で学校法人昭信学園から名称を変更）と町が連携して設置運営する「公私連携幼保連携型こども園」。学校法人二葉学園が運営してきた「二葉幼稚園」と町立「白糠保育園」の両園が併合する形で誕生しました。

町はこれまで、将来を見据えた行財政改革に取り組み、官から民



白糠小学校に隣接されている白糠こども園

へという国の動きや、時代の流れに沿って「民間にできることは民間に」との考え方に立ち、まちづくりを進めてきました。

幼児教育・保育につきましても、民営化に向けた検討、協議を重ね、昨年9月に町が所有する施設において、認定こども園を運営する公私連携法人に、学校法人二葉学園（当時の名称は昭信学園）を指定させていただきました。

少子化の中で幼児教育・保育環境の充実を図るため、二葉学園が有するノウハウと、町立の施設で培ってきた保育の取り組みを融合します。

町は、二葉学園への支援はもとより、出産・保育・教育・医療などの各分野にわたる一体的な施策である「『太陽の手』子育て支援事業」を展開し、これからも子育て支援や子どもたちの健全育成に努めていきます。

認定こども園への 円滑な移行のために

4月1日から学校法人二葉学園が「白糠こども園」と「庶路こども園」を運営しています。両園の園長は、これまでと同様に白糠こども園は平賀貴美恵園長が、庶路こども園は田中由紀園長が、それぞれ町からの派遣という形で務めています。

平賀貴美恵園長…2年前から認定こども園への移行に向けて検討・協議を進めてきました。また保育所保育指針が改定されたこともあり、保育の質や専門性向上のため、職員の研修を強化してきました。今年5回、北海道教育大学から幼児教育アドバイザーを講師に迎え、勤務終了後に研修を行ってきました。ですので、認定こども園になったからといって『これからどうしよう』というのではなく『いよいよ始まった』という感じです。

開園に当たって先生たちと共通認識を持っていたのは、子どもたちへの配慮です。二葉幼稚園に通っていた子どもたちや、新たに入园する子どもたちの不安な気持ちを、少しでも取り除いてあげられるようにと、準備を進めてきまし



白糠こども園の平賀貴美恵園長

た。実際、子どもたちは、すぐに仲良くなりましたし、友だちが増えたと喜んでいました。保護者も二葉幼稚園の先生が来てくれたことを喜んでいましたし、『安心しました』とも言ってくれました。

一方、先生たちが増えたことで、いろいろな考え方もでてくるようになりました。私たちが習ってきた幼児教育と、今の若い先生たちが習ってきた幼児教育には違いがあります。いろいろな考えがあってもいいのですが、先生によって、子どもたちへの対応の仕方が変わってはいけないので、そこはしっかりと先生同士でコミュニケーションを図り、研修も行って、共通認識を持つようにしなければならぬと思っています。子どもたちが『こども園大好き』、友だち大好き、先生大好き』と、笑顔で通ってくれる園を目指しています。